

## 興居島地区タウンミーティング(要約)

テーマ：興居島地区のまちづくりについて

平成31年3月30日(土曜日)

【市長】 皆さん、こんにちは。今日は土曜日の午後で、何かとお忙しかったのではないかと思います。このようにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、本来このタウンミーティングは昨年7月7日に開催する予定でしたが、7月6・7日に豪雨災害がありました。興居島も非常に被害の大きかったところですので、被害に遭われた方々に、改めて心からお見舞いを申し上げたいと思います。そのような事情で延期となり、長らくお待たせしましたが、本日開催できるようになりました。これもまちづくり協議会の会長さんをはじめ、役員の方々の御協力のおかげです。心から感謝を申し上げます。被災後、私も興居島などの島しょ部や山間部、沿岸部などに足を運び、去る3月14日にも興居島に来ていました。現地を見て、皆さんの声を直接お聞きする中で、一日も早い復旧、復興に向けて、引き続き全力で取り組んでいきたいと考えています。現在の状況ですが、市道や農道につきましては、国の災害査定が全て完了しており、準備ができたものから復旧工事を発注しています。また、園地の被害や農業関連施設の復旧などは、愛媛県や農協、JAなどとも連携して地域の皆さんの気持ちに寄り添いながら、引き続き息の長い支援に努めていきたいと考えています。さて、本日は私が3期目に入らせていただいて初めてのタウンミーティングで、合計で111回目になります。これからも皆さんの声を聞かせていただきたいと思っています。これまでの110回は、参加された皆さんから「市の取り組みを知ることができて勉強になった」という声を多くいただいています。そこで今回から、タウンミーティングの中盤に広報タイムというものを取らせていただいて、市民生活に役立つ情報を紹介していきたいと思っています。また、今日のタウンミーティングでいただいたご意見に対しては、できる限りこの場でお答えして帰ります。中には、国と関係する案件や愛媛県と関係する案件、財政的によく考えなければならない案件など、いい加減な返事をして帰るわけにはいかないものもありますので、いったん持ち帰らせていただいて、必ず1カ月をめぐりにお返事をするというのが、松山市版のタウンミーティングです。きちんと対応させていただきたいと思っています。今日はこれからの興居島地区のまちづくりに関して、いい意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【司会】 次に、興居島地区の取り組みについて、市長からご説明します。

【市長】 興居島でも1巡目、2巡目とタウンミーティングをさせていただきましたが、これまでいただいたご意見の中で代表的な対応例を紹介させていただきます。まず、平成24年3月に開催した1巡目のタウンミーティングでは、旧由良小学校と旧泊小学校の跡地の活用を教えてほしいというご意見をいただきました。今日は地元ご出身の市

議会議員さんも来られていますが、一緒に小学校の運動場に行きまして、地区の運動会に出させていただいたのを大変懐かしく覚えています。旧由良小学校の跡地には、2年前の平成29年4月に島の活性化と移住定住を目的とした体験滞在型交流施設「ハイムインゼルごごしま」をオープンしました。ハイムはドイツ語でホーム、インゼルはドイツ語でアイランドです。「ふるさとの島、興居島」という意味になりますが、ドイツにこういう農業体験施設が多いものですから、この名前が付いています。家庭菜園を備えた1LDKの居住棟が8棟あります。また、交流棟と倉庫を整備して、最長で3年間のお試し移住体験ができるようになっていました。先月2月末には、入居者から初の定住者が誕生したというニュースを聞き、とてもうれしく思っています。また、来月には、新しい入居者を迎えて、ハイムインゼルの8棟すべてが埋まる予定です。旧泊小学校の校舎は、公募によって選定された方が、平成25年から興居島の情報発信の拠点となる「しまのテーブルごごしま」として、興居島産の農作物の商品開発やカフェを運営されています。また、平成26年3月23日開催の2巡目タウンミーティングでは、「旧由良小学校と旧泊小学校の体育館を耐震化してほしい」というご意見もいただきました。旧由良小学校と旧泊小学校の体育館を耐震化し、避難所を兼ねた公民館附属施設として有効活用するため、現在、耐震改修の設計を行っているところです。4月からの新年度になると、耐震改修工事に入る予定です。改修する内容ですが、耐震補強工事に併せて、内装や外装を改修します。今の耐震改修で内装や外装を新しくすると、かなり新しく見えます。そして、トイレを洋式化します。また以前のトイレですと、男女が一緒になっていて、なかなか使いにくいというお声をいただくものですから、男女別化し、利便性を高めます。また、災害用備蓄スペースを新たに設けることで、避難所としての機能を向上させていきます。改修した後は、お祭りの練習やレクリエーションなどのコミュニティの場として、また、災害時には避難場所として、地元の皆さんに安心してご利用いただきたいと思っています。次に、1巡目のタウンミーティングで、「果樹の振興について行政の支援を継続してほしい」というご意見をいただきました。ご存知のように柑橘農業は、興居島にとって基幹産業です。ご意見をいただいて、紅まどんなや甘平等柑橘有望品種の生産力向上に向けた施設整備のための予算を確保して、安定した生産ができるように支援をより一層推進しています。4月からも、柑橘有望品種のハウスの施設整備や水をまく灌水の設備、また、鳥を防ぐ防鳥ネット、有望品目の苗の提供などの支援を行いますので、ご利用いただければと思います。さて、本日のタウンミーティングですが、まちづくり協議会さんをご相談させていただき、サブテーマを「暮らしの安全安心と生活環境の整備」と「島の活性化と農業振興」にさせていただきました。いつもタウンミーティングで申し上げますが、まず、一つ目に「行政がやるべきこと」があります。二つ目に「地域の皆さんでできること」があります。三つ目に「地域の皆さんと行政が連携してできること」があります。今日は皆さんと有意義な意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

【男性】 タウンミーティングを開催いただき、誠にありがとうございます。私は豪雨災害のことで御礼と、今後につながることをお話しさせていただきます。豪雨災害があった7月ごろは、どうなるのだろうか、生活が脅かされました。それでも、危機管理課の担当者の方ほか、行政に本当に早い対応をしていただきました。興居島の人たちで復興対策本部を立ち上げようということで、いろいろとご迷惑をおかけしましたが、行政とのパイプは非常にうまくいったのではないかなと思います。すでに農道や県道、市道などの道路は素早い復旧が進み、また柑橘も夏の間には農薬などやれることができて、共選でも730トンほどの出荷ができました。本当にありがとうございました。今後ですが、順調に復旧は進んでいますので何も言うことはないのですが、一日でも早くみんなが安心して生活できるようにしていただきたいと思います。

【市長】 島の皆さんが復興対策本部というのを立ち上げたというのは非常に珍しいケースだと思います。住民の方が個別に要望を言っていけば混乱してしまうので、復興対策本部で集約していこうという動きに心から敬意を表したいと思います。島の方々も頑張ってくださいていますし、動いてくださっているので、できるだけ早い復旧に努めたいと思いました。豪雨災害の後、ずっと松山市の職員に言ってきたのは、「被害に遭われた方が一番つらいのだから、できるだけ被災者の方に寄り添った対応をしましょう」「一日も早い復旧に努めましょう」ということです。7月6・7日だったのですが、早いものは7月中に直せないのか、7月で直せないなら8月、9月、10月、年内に直せないのか、年度内で直せないのかということで、3月14日には改めて一日かけて全ての被災地を回らせていただきました。11月に私の三度目の市長選挙があり、公約で「松山の農業を守ります」と書かせていただきました。JAさん、えひめ中央農協さん、松山市農協さんとしっかりと連携して、松山市の農業を守るんだという気持ちで書かせていただきました。12月の紅まどんな、1月のせとか、そしてカラマンダリンと、年間3回、柑橘のトップセールスに大田市場に行っています。なかなか忙しくて、平成29・30年のゴールデンウィークごろはカラマンダリンのトップセールスのために大田市場に行けなかったのですが、今度は行きます。豪雨災害後の最初の紅まどんな、せとか、カラマンダリンのトップセールスには、絶対行かなければいけないという想いで、産地を見させていただき、大田市場でいい値段を付けてもらえるように、一生懸命トップセールスをしていきたいと思います。40年に一度ともいわれていますが、あれだけの雨が降りましたから、元通りになるには少し時間がかかります。島内一周道路の復旧も地元の負担なくできるようにさせていただいています。できるだけ早い復興に努めていきたいと思います。由良地区の島内循環道路ですが、4月中には工事の発注を行い、11月の完成を目指して進めていきますので、どうぞよろしくお願いします。

【男性】 私は興居島の空き家の現状と今後の見通し、また移住者の推進などをお願い

したいと思います。現在、空き家が約70戸あります。独居数が139件あり、このうち77歳以上が84件で約60パーセントになります。人口の推移を申し上げますと、平成20年から平成30年の10年間で、世帯数が約112戸、人口が459名減っていて、出生率がゼロに近いという状態でもあります。今後の人口減少と並行して、空き家の増加が加速されるものと思われます。平成29年に由良小学校跡地にハイムインゼルを創設していただき、現在8戸で14人が移住しています。3年契約で、あと1年ありますが、その後も興居島にとどまっていただくよう、施設長からお願いをしているようです。要するに、空き家に対する島外からの移住をどのように進められるのか、我々ももちろん一つになって、この問題に取り組んでいかなければいけません、市として何か移住者に対する助成措置はできないものかとお願ひ申し上げます。

【地域振興担当課長】 ハイムインゼルの件は、島へ移住いただく前の体験施設として3年間居住でき、平成29年度に入居された世帯は、平成31年度が最終年度となっています。島しょ部の空き家情報は、平成28年4月から、NPO法人農音さんに情報収集のほか、ウェブサイトなどで情報発信をしていただいています。ただし、NPO法人農音さんも現地等の把握ができていないものですから、そういった情報は、地域の方々、ハイムインゼルの場合は管理組合さんを通じて相談いただけるような体制づくりをし、離島の空き家情報などを活用できる情報発信をしています。それから、移住の支援は、住宅課が担当になり、移住者の住宅支援事業メニューもあります。その支援メニューも、皆様のご意向などを踏まえて、もっと分かりやすく発信し、活用していただくとともに、島しょ部に移住していただける対策を所管課と検討していきたいと考えています。

【産業経済部副部長】 私から追加ですが、銀天街の中に「未・来（ミラクル）job（ジョブ）まつやま」があります。ここでは、UターンやIターンを検討されている方への求人情報の提供や就労相談を行い、松山市への就職や再就職をサポートさせていただいています。また、新しく起業を検討されている方の相談にも対応していますので、お気軽に相談いただけたらと思います。

【市長】 さまざまな角度から行っています。例えば、結婚していただくのも一つの方法です。松山市は、平成25年度から島しょ部の独身の方に出会いの場を提供する里島（りとう）出会い創出事業に取り組んでいます。離島を離れた島と書くからマイナス思考になるので、島の中の人にも外の人にも「ふるさと」を感じてもらえるように、ふるさとの里で里島（りとう）構想といいます。中島や興居島で開催させていただきましたが、6年間で延べ47組のカップルが成立しています。また、興居島の小学校で、スポーツイベントをするようになりましたね。マラソンで健康になっていただく、ウォーキングで健康になっていただく、サイクリング、島内一周道路は今、復旧に努めていますけれども、島内一周道路でサイクリングするというのもありますし、小富士があるので、トレッキング、山登りもできますね。興居島はそういうスポーツイベントがいいと思って考えました。みんながフルマラソンをできるわけではないので、恋人峠の風景を楽し

むとか、別の角度で「綺麗だな」「いいところだな」と感じることでできるイベントも考えているところです。それと、興居島から通勤や通学をするときに、フェリー代金が負担に感じるという皆さんからの声で、補助を出せるようになりました。また、人工透析とか、妊婦さんが診療を受けるときのフェリーの運賃補助も出せるようになりました。一方で、興居島に通うために松山から興居島に来る人のフェリー代も補助できないかという声もあるのですが、これを実施してしまったら、興居島に住まなくても松山に住んだらいいんだということになり、興居島が賑わうことにならないですよ。今後も興居島の賑わいを考えたさまざまな策を展開していきたいと思っています。

**【男性】** 私は2年前に関西からハイムインゼルに移住させていただきました。約2年の月日が経って松山市役所の方、地元議員、施設長、スタッフの方々、島の皆さんに大変良くしていただいて感謝しています。ハイムインゼルのみんなもすごく感謝していると思います。本当にありがとうございます。また、この場をお借りして、今年の豪雨災害で被害を受けられた方にもお見舞い申し上げます。はじめにハイムインゼルごごしまの現状をお話させていただくと、第1期の8家族が一昨年の4月から7月にかけて入居しました。若い世代から一線を退いた方で16名が生活を始めました。ただ、第1期生のうち現在、残られている方が9名です。約半数の方がハイムインゼルを出て、この島からも出られてしまいました。皆さんが出られた大きな理由の一つが、仕事がないことです。興居島から松山市内に働きに行かれる方もいるのは聞いていますが、私たちが面接に行くと、まず言われるのは「興居島ですか」と。あとで聞いたのですけれども、面接の場では表立っておっしゃられることはなかったんですが、帰宅時間に制約が出てくるということで、会社としてはそこがネックになり、面接で多く落とされています。そこで文部科学省が「～未来につなごう～『みんなの廃校』プロジェクト」を提唱し、泊小学校で「しまのテーブル」をされていますが、ほかにも施設が空いていると思います。小学校跡地を活用した企業誘致とかもあると思います。平成26年7月1日に松山市策定の「離島振興を促進するための松山市における産業の振興に関する計画」の期限が明日までと思いますので、次の振興に入れていただければと思っています。次に興居島を出て行かれる大きな理由が、ハイムインゼルごごしまに最長3年住みますが、その次の住まいで、先ほど質問があった空き家対策にもなってきますけれども、現状貸していただける家というのがほぼない状態です。あってもその家が廃墟であったり家を立て直すための道がないので再建築ができなかったりという問題が多くあります。できれば私たちハイムインゼルの1期の人には来年までこの島に残りたいという気持ちもあります。できるだけその辺りを考慮していただけると私たちも頑張っていこうと思えますので、ご支援、ご指導などを松山市の方々をお願いします。私たちは、逆に言うと、本当のふるさとを捨ててここへ来ていますので、皆さんのお力添えをよろしくお願いします。

**【産業経済部副部長】** 企業誘致のお話をさせていただきます。松山市では、企業が事

業所を申請する場合などに、土地や建物、機械などの取得に要した費用が3,000万以上の場合に、企業立地促進奨励金を交付していますが、興居島ではこれを3,000万以上ではなく、1,000万以上に要件を緩和しています。それと新たに雇用した人に対して交付する雇用促進奨励金の支給要件として、2名以上のところを、興居島は1名以上に緩和しています。このように、離島に企業が立地する場合に企業立地促進奨励金の要件を大幅に緩和して、今後も興居島進出に興味のある企業に対して優先的に誘致活動をしていきたいと考えています。

【地域振興担当課長】 補足ですが、先ほどの計画は、国の制度の延長がありましたので、今までの5カ年の計画を見直した上で、現在、変更した計画を国に提出しています。その許可が下りましたら、皆さんに情報提供させていただきたいと考えています。

【市長】 企業誘致でいうと、東京の企業から松山市の地域経済課に「どういふ補助メニューがありますか」という話が金曜日に届いたことがあるんです。今、愛媛県と松山市は連携して取り組みますから、その翌週初めには愛媛県と松山市がそろって東京に行って、企業さんに「もし進出していただいたら、愛媛県ではこんな補助メニューがあります、松山市はこんな補助メニューがあります」というのを一緒にすぐ説明しているのが現状です。仲が悪いと、県は県で、市は市でというような形になります。今、県と松山市は連携してすぐさま取り組んでいるので、できる限り企業誘致をこれからも進めていきたいと思ひます。

【都市・交通計画課長】 松山市では「我が家のリフォーム応援事業」という補助制度がありますのでご紹介します。「我が家のリフォーム応援事業」という補助制度は、移住者に対する住宅リフォームの支援で、工事費の10パーセントで30万円が補助の上限となっていますが、それ以外に加算措置として、移住者加算は上限が30万円、リノベーション加算は10万円、三世帯同居近居や多子世帯の加算は30万円という加算措置もありますので、この活用もご検討いただければと思ひます。

【男性】 泊公民館の館長をさせてもらっています。体育館の耐震工事は、以前からずっとお願いをしていたのですが、それがかない、ありがたく御礼を申し上げたいと思ひます。ありがとうございます。最近、燃料関係の値上げが激しい中で、若干下がってはいますけれども、生産者が箱に詰めて販売をする段階でのフェリー運賃が、興居島から出荷する場合はかなりの負担になっています。個人が出される方、共選で出される方もありますが、一部でもいいので、生産者に対して、または出荷する荷物に対して少しでも運賃の助成ができないかというお願いです。

【産業経済部副部長】 松山市では農業所得の向上を目的とするさまざまな補助事業の実施をしていますが、ご質問の農産物の運賃助成は、島しょ部に限らず陸地部の中山間部からの出荷も考えられ、それぞれの地理的要因によるところが大きいために、現時点では特定の地域の輸送費を負担するということがなかなか難しい状況ということで、ご

理解をいただいたらと思います。

【市長】 別の形での支援もあります。例えば、ハウスの資材、機材、灌水資材への補助や、イノシシやサルなど鳥獣被害から守る電気柵や鳥除けネット、防鳥ネットなどの補助があります。皆さんご存知かと思いますが、柑橘に鳥が止まったところは人間の目では分かりませんが、光センサー選果機だと、鳥が止まったところが分かるそうなんです。その止まったところに水が入ると三日後ぐらいにものが悪くなるで、そのようなものは光センサー機ではじくそうなんです。これは農協の方から教えてもらってすごいなと思ったんですが、そういう光センサー選果機には大きいお金がかかりますから、そこに対する補助などを進めています。興居島から運んでらっしゃる方、中島から運んでらっしゃる方、松山の陸地部で柑橘をつくり運んでいらっしゃる方もいる中で、お金を出すためにはサポートの方法が難しいので、このような形でのサポートを行っています。

【男性】 興居島小学校PTA会長させてもらっています。まず興居島小学校は、松山市からも手厚い支援をいただきまして、今年度、10周年を迎えることができました。この場で御礼を申し上げます。ありがとうございました。興居島小学校は、島外からもたくさんのお子さんを迎えて、この10年間かなりいい環境で小学校を運営することができていますが、小学校を支える上で非常に重要になっているのがスクールバスです。このスクールバスのことで、今、二つの大きな問題点を抱えています。一つは、学校主体でバスの運用をすることができないんです。毎回、教育委員会にお伺いを立てて、さまざまなお願いをしますが、それをもう少し学校主体で柔軟な形で運用させていただけないかということが一点です。さまざまな状況でスクールバスを動かしたいということが多いんです。急に行事が入ったり、緊急事態で子どもを何人も帰さなければいけないとか、台風等が来たりというときに、学校で対応ができないということです。あともう一つ大きな問題として教育委員会に一度お願いをし、無理ですと断られて、もう一度、PTA会長の請願書という形をお願いさせてもらっているものがあります。今、御手洗というところから2キロほど長い距離を小学校1年生の子どもが歩いて通わなければならない状況にあるんです。バスの停留所までが2キロ。バスの路線をほんの2キロ延ばしていただくと、通学の危険を緩和することができます。歩いている場所はイノシシがたくさん出没する場所であったり、ちょっと横に入るだけでため池があったり、滑落した危険な場所もあります。それを非常に活発で元気な男の子が一人で通学するとなると、非常に危険だなということで、そのお願いを教育委員会にしているところなので、松山市からも可能であれば、お願いを一言していただきたいと思います。それから、バスが古くなって、もうそろそろ耐久年数を超えてしまうので、できれば新しいものにしてほしいということです。島外からの生徒もかなり多くなって収容しきれなくなり、2往復して学校の授業に支障をきたすようになってきています。多少なりとも大きいものがあると便利だと思っています。スクールバスを主体的に運用してほしいということ、

通学バスは可能であれば新しいものを準備していただけないかということ、難しいことかもしれませんがご検討ください。

【生涯学習政策課長】 まず一点目の運行時間のお話しですが、実はスクールバスは、昔、議会事務局で使っていたマイクロバスを教育委員会で引き受けたものです。ただし運転は、小中連携事業ということで日浦のひめゆり号と興居島のマイクロバスを委託に出して、運転業務をお願いしています。今、門田の児童を一番はじめに7時41分に戻って、それから北浦を回って由良に戻って、その子どもたちを学校で降して、そのあと南回りで泊港に島外から来た子どもを乗せてきている状態です。この運行計画は、学校で作っていますので、変更するようであれば伝えていただければと思います。

【男性】 それは教育委員会へ学校からお願いをして、一度断られていて、それをもう一度PTAからの嘆願書という形で教育委員会に持って行っています。

【生涯学習政策課長】 嘆願書は先般、学教育課に届けていただいたと伺っています。私も詳細に聞いてみますと、運行は学校事務の方が作られて、それを受けて私どもが運転業務を委託している会社に話していますので、その辺りは弾力的にできるようになっています。あと2点目の御手洗のお子さんの件ですが、7時41分に迎えに行っている一番目の児童の時間を前倒ししていただければ、泊の方も回ってその子を学校までお送りできるようになるのではないかと思います。ただ調査しますと、時間を早める児童が5名くらいいるので、そのご家族の方に若干早めになるということをご了解いただければ回れるようになると思います。それとバスの更新ですが、マイクロバスは平成5年の仕様で、走行距離が7万3千キロくらいの車両です。一般的にマイクロバスは10万キロか15万キロは使えるので、当面はこのまま運営したいと思います。ただ、道路交通法で子どもの場合は二人掛けで3人座れるというルールがあり、シートベルトを付けるなどの改造をすれば、今の29名乗りの定員が若干増えるようになりますので、検討させていただきたいと思います。

【司会】 ここで、冒頭で市長が申しましたとおり、市民生活に役立つ情報をお知らせする広報タイムの時間を10分程度取らしていただきたいと思います。本日は、AEDの使用方法について消防局からお知らせします。

#### 広報タイム「AEDの使用方法について」

AEDの取り扱い方と心肺蘇生法について説明しました。

【男性】 島の活性化といいますと、やはり定住促進が一番じゃないかなと思います。ところが、建築指導課では、どうも家を作らせないという考え方なんです。これは、市役所の職員さんも一緒に来ていますから、ちゃんと証明できます。それで、どうしたら



いいかという提案は一切してくれません。もちろん、興居島は調整区域になっていますから、法律的な規制があると思います。だけど、松山市の島の活性化といいながら、逆に抑制をしているというところが、今の状態じゃないかなと思います。続いて農業振興ですが、農業委員会は耕作をしていないと農地じゃない、だから、地目が農地であっても所有権の移転対策はできないという見解を持っているようです。そうすると、今の災害に遭った農地はどういう位置付けになるのかということを質問いたします。

【都市・交通計画課長】 まず、おっしゃるとおり都市計画法では、市街化調整区域では、原則、建物が建てられないことになっています。ただし、認められる例外規定の一つとして、調整区域の中でも農家住宅（農業従事者のための住宅）を1棟に限り、建てるのが可能となっています。

【産業経済部副部長】 災害に遭った農地のことですが、松山市農業委員会では、自然災害による被災地で、表土が流失して岩石が露出しているなど、復旧が困難な農地は、その土地の所有者から非農地証明の申請があった場合に、愛媛県が定めているものに基づき非農地証明を行っています。また、この証明を受ければ、農地法の許可を受けなくても、地目変更や所有権移転ができるということです。

【男性】 興居島には公共の交通機関がなく、タクシーも廃業をしており島民が困っていました。民協、社協は島民が困っているのを聞き、何とかならないかと運動を始め、数年の月日を要し、行政のいろいろなご苦勞があったことと思いますがご理解をいただき、興居島に過疎地有償運送事業「ふれあいタクシー」が松山市で初めて認可されたことを本当にうれしく思っています。島民に代わり厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。さて、ふれあいタクシーは、開業してから利用会員さんは「良かった、助かる」と言って本当に喜んでいただいています。開業初年度は多くの皆さんが登録会員に入会してくださいました。島内は人口減少が進んでいて、5年目を迎えた現在は、登録会員さんが減少しており、このままの状況では運営を引き受けてくださっているデイサービスさんも困るのではないかと危惧しています。松山市には、今後の状況に注視していただき、それなりの対策をしてくださいますようお願いを申し上げます。島民にとって、ふれあいタクシーは唯一の交通機関です。島民でできることは、協力してまいりますので、よろしく申し上げます。

【市民部長】 地区社協の皆さんにはいろいろ本当にお世話になっております。先ほどお話がありましたとおり、松山市もいろいろな形で地区社協の方と連携して、できる限りのことをしているところです。今、過疎地有償運送事業におけるポイントカードの運営などの形で事業者の経営を何とか支援しています。今のお話ですが、現在、地区社協と話を進めていかなければと考えていますが、確かに人口減少の中で、島や過疎の山の方も、公共交通機関が非常に問題になってこようかと思っています。そうした中で、松山市も各団体と調整をしながら、どのような方法ができるものか、現実的に事業者の経

営が厳しくなったときが一番困ると思いますので、その辺を市の社会福祉協議会としてと連携をし、地域の皆さんにご不便をかけないように、話を進めていきたいと思ひます。

【女性】 興居島小学校と子ども教室の支援をさせていただいています。興居島小学校の児童らは小学校からスクールバスにて往復していますが、平成30年度は1年生から6年生まで46名が通学しています。46名のうち島外の通学が31名、島内の通学が15名、今年度は3名増えて、49名になるということです。海山に囲まれた6年間は、街中の学校で経験できないことではないかと思ひます。小富士山登山、島四国めぐり、水軍太鼓、海水浴、船踊り、デイサービス・グループホームの訪問など、地域の方々も協力して学校のお手伝いをしています。今年2月の学習発表会では泊小学校・由良小学校統合10周年ということで、各学年とも興居島に関してのプログラムを組んで調査し、立派な発表会でした。興居島ならではのイベントに恵まれて、先生方もとてもお忙しくされていますけれども、きっとのびのびとした多感な時期の6年間というのは、子どもたちにとってはすごい思い出ではないかなと思ひます。昨日は教職員の離任式があり、泊棧橋で異動された先生方のお見送りがあったんですけども、色とりどりの紙テープでお別れをして、とても感激しました。放課後は、乗船に近い泊公民館で子ども教室を行っています。火曜から金曜の授業が終わる午後4時すぎから5時25分の船の出る1時間弱ですが、島外31名中19名、島内15名中4名、多い日は23名、少ない日は16名ほどで、地元支援員9名が交代で宿題などを見守っています。宿題を終えて残り時間はゲームとか遊びとか読書をして、帰りの船までお見送りをしています。子どもたちは朝は緊張した雰囲気ですが、お見送りのときは楽しく帰っていくようです。仕事をされている保護者の方が多いので、宿題をして帰るといのが喜ばれている状態です。今年度は、子ども教室はまた人数が増えるということですなので、支援員も頑張っていますし、島民の方も子どもたちを見かけたら見守っていただければと思ひます。

【生涯学習政策課長】 日ごろから放課後子ども教室につきましては、PTAの方や公民館の役員の方に協力していただいて、本当に感謝しています。先ほどご紹介いただきましたように、小中連携事業で今31名の子どもたちが島外から来ています。この4月から31名のうち2名減りますが、新たに5名の新しい小学校1年生が増えまして、来年度は34名島外から生徒が来るようになっています。興居島の自然であるとか文化的なところであるとか、子どもたちが家庭に帰って保護者の方に「興居島ってこんないいところだよ」と言うと、定住にもつながると思ひますので、今後も地元の方のご協力をいただきながら、放課後子ども教室をはじめとした子育て支援策を教育委員会としてもまいりますので、ご協力をよろしくお願ひします。

【男性】 松山市農協の興居島果樹部会で部会長をさせていただいています。昨年の7

月豪雨災害におきましては、松山市をはじめさまざまな方にご支援をいただきました。松山市農協管内に限らず、愛媛中央農協管内の農家は、本当にお世話になったと思います。災害以降、農林水産副大臣や自民党本部の農林部会の国会議員の方々が島に来られる機会がありました。その都度、お話しさせていただいたのは、若い担い手と言われる方たちの農地がかなり被害に遭って、生産意欲を失うことを大変危惧していますということをおし上げてまいりました。若い方々が生産意欲を失わないような施策をもっとお願いしたいと思っています。例えば、経営基盤の強化としては、優良な農地を取得した若い方が経営していくことは急務だと思っています。そこで、今年度、耕作放棄地の一例ですが、里山再生事業というのがあり、その事業がなくなるということを知りました。島にとって耕作放棄地は問題になっていますが、イノシシの生息地にもなりますので、興居島から耕作放棄地をなくすということが願いでもあります。耕作放棄地の再生事業を継続してもらいたいと思っています。それから若い方と市役所の方との懇談会で、今抱えている問題などお互いが話し合える機会を設けていただきたいと思いますと思っています。

【農林水産担当副部長】 再生事業は平成30年度までですが、それ以外でもいろいろな事業がありますので、個別に相談いただければと思います。もう一つは、農地中間管理機構の関連農地整備事業というのがあります。由良地区の方で本格的に来年から実施すると思うのですが、10ヘクタールくらいの耕作放棄と再生も含めた整備事業です。そういうところも活用しながら進めていきたいなと思っています。それから、若い農家の方との交流ですが、ご案内いただければ、農林水産課の職員が中心になるとと思いますが、参加させたいと思いますので、よろしくお願いします。

【市長】 タウンミーティングは9年目になりますが、ずっと言ってきたのが「現地・現場を大切にする」「市民目線を大切にする」ということです。農業者の方とは私は毎年、食事も交えた懇談会をしています。豪雨災害があったため、皆さんに来ていただいて食事を共にというのは難しいだろうなと思い、残念ながら今年度はできなかつたんですけれども、また毎年、繰り返していきます。青年農業者の方との食事会でいろんな話を聞かせてもらって施策に反映していきたいので、遠慮なく言っていただけたらと思います。

【男性】 由良公民館長です。由良公民館も耐震化のみならず内装、トイレ等を改修していただけるとのこと、厚く御礼申し上げます。安心安全の面から、通学路の安全化ということで、県道の由良泊線の由良から船越へのカーブの曲がり角、ここは宮ノ鼻というところですが、この間約300メートルに街灯がありません。それで、昨年6月に市民参画まちづくり課に調査に来てもらったところ、支柱を2本ほど立てたらできるのではないかという話ですが、ここで再度、要望します。

【市民部長】 昨年の豪雨災害の1週間くらい前だったと思いますが、担当が館長さん立ち合いのもとで、ポールをこの辺りにつけると危険度が下がるという話をしたと思い

ます。新年度から予算も新しくなりますし、以前にお話を承っていますので、できるだけ早く対応したいと思います。担当課が館長さんに連絡しますので、もう一度詳しく調査をし、どういう形がいいのかお話しさせていただけたらと思います。

**【女性】** 空き家対策といっても、今の80戸ある空き家はほとんどが雨漏り状態で、くみ取り式トイレなので、快適な生活をしているハイムインゼルの方がそこに移住するとは思えません。旧泊小学校の隣に60年くらい前に市営住宅が建っていましたが、あそこに快適な市営住宅を建てていただいたら、街からも移り住みやすいし、若い夫婦の方なら安い住宅費で住んでくれて永住してもらえるんじゃないかと思います。今の空き家で、自分の家を直し、トイレやお風呂を直してまで住んでもらおうとは思いません。やはり快適な住宅を提供しないとハイムインゼルの人は移住できないと思いますので、すぐにとは言わないですが、市営住宅を考えていただければと思います。

**【都市・交通計画課長】** 市営住宅の建設は、住宅の整備計画を立てて、財政状況なども考慮して、考えていかなければならない事項になります。担当課の方針や考え方を確認させていただきたい部分もありますので、いったん持ち帰らせていただきまして、後日、改めて回答させていただきます。

**【男性】** 去年、松山北高の生徒が来て、島四国八十八カ所のお寺の清掃をしていただいたんです。4月20・21日が一番メインの行事で、その後は、皆さんほとんど来てくれないんです。島四国の納経帳みたいなものとゴム印で千円くらいのものをつくって、各お寺に鎖でつないで置いていたら、スタンプは100円くらいでありますので、それを持ってきたらいつでも押せるようにしていただいたら、少しでも島に来てくれる人が増えるのではないかと思います。費用としても20万円あったら十分できますので、よろしくお願いします。

**【市民部長】** 北条辺りでもそのようなスタンプラリーのようなものをしています。納経帳という呼び方を変えて、スタンプラリーの手帳にしてもらったら方がよろしいかと行政的には思います。まちづくり協議会でもいろんな取り組みをされていると思うのですが、まちの発展や振興に当てはまるものだと思いますので、一度、まちづくり協議会でご検討をいただければと思います。

**【市長】** 皆さんありがとうございました。本当は言いたかったのだけど時間の事もあって今日はやめとこうと思われた方もいらっしゃるかもしれません。松山市には市長へのわがまちメールという直接のメール制度もありますし、メールでなくても手紙でもかまいませんので、遠慮なく言っていただければと思います。どうせ市役所に言っても変わらんのよ、ではなくて、皆さんのお声を基に判断していくのが市役所になりますのでどうぞ言ってください。こういうことはできないんですが、こういう形のやり方が

ありますとか、こういう支援のメニューがありますとか、ご紹介することもできます。街灯のことも、もう受け取っていますのでできるだけ早くしていきたいと思います。市役所の文字は分解すると、市民の皆さんの役に立つ所で市役所でなければならないと思っていますので、どうぞ遠慮なく言っていただいたらと思います。また先ほど言っていただいたように、若い人たちも興居島が好きで動いてくれている人たちがいます。実は、若い人たちにもまちづくりに参加してもらおうと平成28年度に「まちづくり提案制度」をつくりました。いい提案は松山市としてサポートしますよ、という制度なんです。松山北高校の生徒会から、興居島の魅力を多くの人に知ってもらいたい、移住・Uターン、島への訪問者を増やして地域の活性化につなげたいという提案がありました。それをサポートさせていただき、昨年10月から12月まで計5回にわたって、島四国88カ所のすべての調査と清掃を高校生がしてくれました。こうやって若い人たちも興居島に着目している例があります。町内会の皆さんも聞かれたかかもしれませんが、興居島で温泉の複合施設の開発計画も出てきているそうです。冒頭で、松山の農業を守りますと言わせていただきました。不幸な話になりますが、松山市農協のトップの方も先日お亡くなりになりましたし、愛媛中央農協のトップの方も病気でお亡くなりになりました。かなりのストレスがかかったのではないかと思います。被災された方もそうだと思いますが、できる限り私たち市役所は寄り添って、できる限りの支援に努めてまいりたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いします。今回いただいたご質問に対しましては持ち帰らせていただいて、1カ月をめどに皆さんにお返しさせていただきます。最後に農地の復旧のことですが、7月6・7日の豪雨災害の後に私もできるだけ現地に入りたかったのですが、最初は指揮命令を庁内でしないといけないため、もともと農林水産部長で中島出身のアドバイザーに、都市整備部長だった技官に全部の被災地に行ってもらいました。2人は、農業のこと、島のこと、都市整備のことが詳しいですから、できるだけ早く動いてもらいました。また副市長も都市整備が長いですから、私が行けない分、興居島にも入ってもらいました。島の方が本当に頑張って動かれているんだなというのをすごく感じました。また遠慮なく言っていただいたらと思います。本当に豪雨災害の時に興居島の方々が一生懸命動いていただいたのをよく目に焼け付けていますので、また皆さんと一緒にいいふるさとづくりができればと思います。今日は本当にありがとうございました。

—了—